

令和7年度第2回一関市図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和7年11月14日（金）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐々木伸也委員、都澤喜久子委員、金安信委員、岩越裕史委員、菅原夏希委員、鈴木宏委員、玉澤万里子委員、鈴木純香委員、菅原慶子委員、吉瀬献策委員、那須照市委員、阿部利彦委員、千葉哲夫委員
 - ※欠席者 二階堂美恵委員、門田真奈美委員、岩本智美委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、佐藤和子大東図書館長、千葉浩千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、小野寺晃一室根図書館長、菅原春彦川崎図書館長、佐藤詠一藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、小野寺香代一関図書館副館長兼資料サービス係長

- 5 議 題
一関市立図書館振興計画について（諮問事項）

- 6 公開、非公開の別 公開

- 7 傍聴者 なし

- 8 挨拶

- (1) 時枝教育長

本日はお忙しい中、図書館協議会にご出席いただき、また、各図書館においては、本日を迎えるに当たり、それぞれ運営協議会を開き準備していただいたことについて重ねて感謝申し上げます。

最初にお伝えすることとして、連日のようにツキノワグマが出没している。基本的にはエリアごとに出没情報が出た場合には連絡し、注意していただくというふうに対応している。また、夜間から早朝にかけて出没した場合には、大体半径2キロメートル圏の教育施設、文化施設等には直接連絡し、例えば学校であれば児童生徒あるいは保育所、幼稚園等では登園、登校が始まる前にメール等で注意喚起し、保護者の送迎の依頼等ができるような体制を取っているところ。また、先日10月27日に巖美町下り松地内で発生した人身事故については、その場に現れた熊は駆除されたが、その後の簡易的な検査では、人を襲った熊と駆除された熊が同一かどうかまだはっきりしていないところ。

今、正式なDNA鑑定を行っており、まもなくその結果が出ると思うが、同一個体であるという結果が出た場合には、巖美小学校、巖美中学校については危機管理レベルを上げて対応するところであるが、いつ元の状況に戻すかについては、熊の出没状況を見ながら考えていきたい。今後もしばらくこの対応が続くと思うが、それぞれ連絡を密にして対応してまいりたい。

なお、一関図書館では、熊に対しての知識を身につけるといことも意図し、企画展を開催しているので、もしよろしければお帰りの際にでも見ていただければと思う。

本題に戻るが、この度は当市立図書館が今後10年間に渡り進める一関市立図書館振興計画の策定に向けて、皆様に議論していただいている。この計画は単なる図書館と施設の運営やサービスの向上にとどまらず、地域の情報拠点としての図書館の役割を表し、未来に向けた図書館のあり方を計画的に進めていくものである。

この図書館の振興計画の上位計画として、現在、同じように10年間を目標年次とした一関市教育振興基本計画を策定している。本日午前中に第4回の策定委員会を開催し、本日の図書館協議会にお越しいただいた委員の中にも、兼ねて出席いただいている委員がおり、感謝している。教育振興基本計画の基本目標について、現在の案では「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」ということで、これは小中学校の子供たちだけではなく、市民の皆様全てに通じる目標として設定している。

この基本目標の下で4つの基本方向を定めているが、そのうち図書館に関わる基本方向は「ともに学び、まちと地域をつくるひとづくり」とし、現在検討している。

図書館は市民の方が共に学んでいく場である。そしてそれがまちと地域をつくっていく役割になっている、それが図書館の役割であるという組立で考えている。

その基本計画の中で、図書館に関する分野は「図書館機能の充実」と、もう1つ新たに「子どもの読書活動の推進」を取り入れることとしており、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目標としている。これが本日審議いただく、図書館振興計画の上位計画になるものである。

本日、図書館長より諮問する本日の計画素案は、現在の計画を推進していく中でも時代は大きく変わり、情報化社会が進む中で図書館の果たす役割も変わっていくと思われることから、社会の変化の中にあってもより良い図書館を作り上げていくためのものにしていきたいと考えている。

本日の協議会では、この計画を実現するために必要な政策や方針、あるいは方向性について皆様からの貴重なご意見をいただきながら、計画をより実効性のあるものにしていきたいと考えている。

また、この後説明するが、今後実施するパブリックコメントでの意見や、再度図書館運営協議会で審議した意見などを取り入れ、来月、計画案として再び審議いただきたい。皆様のお力をお借りして、この計画に地域社会の意見を反映させて、利便性の高い図書館にしていきたいと思います。

(2) 那須照市長

前回の協議会においては、新たな図書館振興計画の策定に関わり、その策定方針について意見をいただいたところである。

今回、事務局から図書館振興計画の素案について事前送付があった。委員の皆様には忌憚のない意見、提案をいただければ計画に反映できるのではないかと思いますので、よろしく願います。

9 諮 問

一関図書館長から会長に対し、図書館法第14条第2項及び一関市図書館条例施行規則第16条の規定により、一関市立図書館振興計画について諮問した。

10 審議内容

一関市立図書館振興計画について（諮問事項）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 計画の35ページ(2)運営の①に「民俗資料館」を入れた方がいいという意見に賛成。

委員 この意見は自ら提出したもの。「民俗資料館」を素案35ページ(2)運営の①の「博物館」の後ろに挿入してほしい。

委員 利用していない人に利用してもらおう、という観点で、明確な位置付けを出していただきたい。

子どもたちについては、絵本など、学び直しはきちんと書かれている。在留外国人も、図書館の利用の仕方をきちんと説明できれば来てもらえる。

早川先生の講評については、各館の反省とかなりリンクしている。それらを計画から感じ取れるように書いていただけるといい。全面的にPRしてほしい。

アンケートの中でイベント講座の充実を求める声があるが、実際かなり実施している。市民の方々に伝達する手立てを振興計画の中でお願いしたい。

市立図書館は地域ごとに特徴がある。それを活かすと他の地域と別の形で明確になり、かつまたその地域とつながったものが出てくる。

委員 当市立図書館は本館、分館の位置付けでなく各図書館に求められる役割が違う。そのニーズに応じて積極的に展開できる形が望ましい。利用していない層が半分。その方々の思いを代弁すると「自分は図書館という 柄ではない」というバリアがあるような気がする。そのような方々は多分、図書館のイベントには来ても資料を借りない。そのような方々にどう働きかけるかについては、もう十分に実施している。移動図書館も実施、SNS発信も実施、いろいろな媒体で宣伝している。見えない壁を持った方々にどうやって本を借りてもらえるか、知り合いの方の口コミやお誘いをきっかけに利用が広がっていけばいいのではないかと思う。それを同計画に盛り込むかは自分にも考えはないが、そのように思った。

一関図書館長 口コミや、それぞれの委員さん方の働きかけもよろしくお願いしたい。やはり図書館職員が働きかけるのと皆様や市民の方が誘うのとでは全く違うので、その点も計画の中に入れ込めれば入れ込んでいきたいと思う。

委員 図書館を利用していない人の割合で、藤沢地域が高い傾向にある、ということについては根拠が明確でないので削除願いたい。

市立図書館と学校の連携が不十分な場合があるというのはどういうことか。各学校で市立図書館にこのような支援をしてもらった、というようなことについてアンケートを取り、共有してもらえると一層学校との連携を深めることができるのではないか。

一関図書館長 一関市は市立図書館と学校図書館との連携は整っているほうである。しかし、例えば一関でいうと、同じ管轄範囲でも読み聞かせ、ブックトークなど何う学校もあれば全然いかない学校もあり、学校によってサービスがバラバラであるため、各図書館からも均一化の話が出ているところ。

委員 本日協議会に出席し、「図書館に任せる」のではなく、「市民による読み聞かせ」「市民によるお誘い」という声が出たことが大変良かった。みんなで考える取組であると考えている。

自分の学校でできることを考えていた。学校の「学びテスト」という取組があり、例えば低学年は100冊など1年間の目標があるが、それを図書館と一緒に地域の数値目標にすると膨らむのではないか。全部学校の本だけという形に限らないようにするというのも地域連携として一つにつながるのではないか。

学校で昼の放送において、図書館の方に来ていただいてイベントの紹介をしてもらうというのも連携につながるのではないか。

委員 本校は図書館と非常に連携させていただいている。ブックトークや各学年に司書の方に来ていただき、授業を行っていただいている。また、2年生では図書館見学で伺っている。また、本校では「お団子スープ」という絵本が図書館から貸し出され、それを地域の方がボランティアとして来てくださり、給食時間に読んでいただいている。あとは、通常学校で取り組んでいる朝読書、親子読書、隙間読書、並行読書など、普及員の方に持ってきてもらい、読んでもらっている。親子読書の推進のときに、電子図書館もあるので、忙しい方はそちらの利用を勧めさせていただいている。

学びの成果を挑戦につなげる図書館というフレーズが素晴らしい。アピールしていただきたい。図書館が「提供する」から一歩進んで「集まってもらう」という表現がとてもいいと感じる。ただ、この項目に当たる指標のところについては、これが増えたからと言っても、学びの成果を挑戦につなげる図書館になったのかと疑問。別の指標ではないかと思うので、検証していただければいい。

委員 学びの成果を挑戦につなげる、ということについて、自分も市民センターに勤めており、共通の趣味を持つ人々について、社会教育という観点から一緒に連携を取り、一緒に取り組みをしていけたらいいと感じた。

全域サービス「誰もがどこでも図書館資料を利用できるサービスを目指す」について、先日、試行ということで、室根小学校へ移動図書館車に来ていただいたが、小学生の利用がいつもの2倍くらいあり、紙の本に触れる機会というのが大変効果があった。ただ、この1回だけで来年度から本格始動ということで、データが少し少ないかなと感じ、また職員も慣れない中で来年度すぐ本格始動ということで、運営体制、仕組の点で負担がないか少し心配しているところ。効果的な運用について検討いただき、職員に無理なく運営できる環境を整えてほしい。